

'14年度 入学式・体育大会



1学期、行事の華と言えば本校では体育大会。

日ごろ鍛えた体を思いっきり動かして競い合うリレー競技など、注目度も抜群。大変盛り上がります。

競技と同時に、群団別で競い合う「応援合戦」にも力が入ります。

いろんな趣向を凝らして1年から3年まで、力を合わせての発表一。

制約のある中でいかに整然と、群団としてまとまって発表できるかが鍵となっています。

創意工夫と規律とは、時には反発しあいます。だからこそ創意工夫と規律との、

本当の統一の持つ美しさが評価される、貴重な時間だと私は思います。

学校長 井戸 裕久



ウエサカ祭

5月16日(金) 覚王山日泰寺を会場にウエサカ祭が行われました。これは、お釈迦様の誕生・成道(悟りを開いた日)・涅槃(亡くなった日)に三つの聖日をつにまとめたお祭りです。毎年、仏教を建学の精神とする県内の学園が集ってお祝いをしています。本校からも、1年生クラス連合が参加しました。

また、本校美術部書道部がウエサカ祭協賛作品展に出品し、左記の生徒が受賞しました。

書道の部

金賞	山田絵梨子 (307)
銀賞	伊藤 駿 (303)
銅賞	佐藤 一恵 (311)
佳作	松山 拓未 (301)
	阪口 亜衣 (311)
	二村 友理 (203)
	前川 千裕 (206)
	早川 隆宏 (208)
	岩井柚衣花 (209)
	豊嶋 彩乃 (110)
	花木 里菜 (110)

絵画の部

金賞	林 柚里 (102)
銀賞	溝口 奈緒 (307)
銅賞	長谷川真子 (105)
	元湯 瑞姫 (106)
佳作	野田麻理奈 (101)
	並木 蓮 (102)
	奥田 彩水 (103)
	渡邊 咲和 (107)

柔道部

- 高校総体名南支部
男子団体 第3位
女子団体 優勝
- 高校総体県大会
57kg級 第3位
63kg級 第2位
78kg級 第2位

- 高校総体県大会
女子団体 第2位 ⇒ 東海大会出場

- 高校総体県大会
66kg級 優勝 永谷 勇気(310) ⇒ インターハイ出場
73kg級 第3位 加藤 光哉(303)

松本 悠里(306)
金田 美香(206)
上山 慧真(310)

サッカー部

- 高校総体県大会 出場

Club & Award News



PTA会長のことば

PTA会長 近藤 孝夫

本年度PTA会長を務める近藤と申します。

さて、1年生の皆さんは入学して早3ヶ月が過ぎました。通学や授業、クラブ活動など、学校生活には慣れましたか。4月のフレッシュマン合宿、5月の体育大会はいかがでしたか。友達もでき、新しい学校生活を過ごされていることと思います。

同朋高校は、進路に合わせた学習プログラムをはじめ、クラブ活動、生徒会、実行委員会の活動など、皆さんの成長と活躍の機会を数多く用意している学校です。高校3年間で存分に楽しんでください。

1年生の父母の皆さんも、学級懇談会、地域懇談会、学園父母懇談会など、様々な行事で先生や父母の方々と交流し、話し合える機会がたくさんあります。ぜひ都合をつけて参加してください。父母の皆さんと一緒に、生徒のためによりよい学校にしていきたいと思います。

PTA新役員



会 長	近藤 孝夫	会 計 監 査	水野 省哉
副 会 長	高木 貴子	事業委員長	花井加代子
副 会 長	河合友佳子	文化委員長	加藤ゆかり
副 会 長	寛 正 紀	生活指導委員長	佐藤 広子
副 会 長	小川美智子	地域懇談委員長	木村 幸美
会 計	三 住 香		
会 計 監 査	西田 勲生		

Schedule 行事予定

6月		8月		9月	
29 日	ビジネス文書実務検定	2 土	オーストラリア語学研修(18日まで)	1 月	始業式
30 日	1 普2 普期末考査	3 日	同窓会総会	6 土	3年進路ガイダンス
7月		6 水	第1回学校公開日(セミナー体験)	13 土	音楽科アンサンブル演奏会 PTA常任委員会 1・2年学級懇談会
1 火	期末考査(4日まで)	9 土	地域懇談会総括会議	26 金	文化祭(28日まで)
7 月	家庭学習日	21 木	合同クラ連合宿(22日まで)	28 日	情報処理検定
11 金	三者懇談会・3限授業(17日まで)	24 日	PTAバスツアー	29 月	文化祭代休
18 金	終業式	25 月	出校日		
27 日	ビジネスコミュニケーション検定	26 火	第2回学校公開日(部活動体験)		

地域懇談会

学年・クラスの枠を超えて、地域別に本音で語り合える場です。早いもので38回目を迎える「地域懇談会」。今年度は「ようこそ同朋ファミリーへ♡」♪ありのままの自分で飛び込もう♪～Webよりリアルで話しましょう～」をテーマに、趣向を凝らしアットホームな雰囲気を実施しようと、各地域の父母の方々と担当教員が打ち合わせを行っています。当日使用するパンフレットは、各家庭に送付しましたのでご確認ください。

6月28日(土)
6月29日(日)
7月 5日(土)
7月 6日(日)

在学地域を24地域に分け、この4日間のいずれかで実施します。

新任・新担任教員紹介

新担任
数学科



山本 明里 先生

1年2組の担任をさせて頂いています、山本明里です。昨年度は教員1年目として、2年生の副担任として、同朋高校の生徒と関わってきました。今年は2年目、さらに担任として関わるので、生徒の見方、思いも変わってきています。担任になって3か月、初担任として毎日を慌たしく過ごしてきました。その中で何もなくても過ぎていく時間を、どう使ってどう関わっていくか、生徒と過ごす一瞬一瞬を大切にしていきたいと思っています。

クラスとしては、36人全員が1人のために何ができるかを考え、行動できるクラスを目指しています。喜びや悲しみ、悩み、感動など、できるだけ多くのことを36人全員で分かち合えるような仲間作りをしていきたいと思っています。

新任
家庭科



古橋 美紗季 先生

初めまして、今年度より家庭科教員として働かせて頂くことになりました古橋美紗季と申します。

赴任してから約3か月間、教員として生徒とともに楽しい日々を過ごしています。

現在家庭科は、男女ともに学ぶ教科となっています。女子だけでなく男子も家庭科の授業を通して、今の生活を見直すだけでなく、自分が親になったとき笑顔のあふれる家庭を築くことのできるイメージとそれ

を支える技術を身につけて欲しいと思っています。そのために、自分の持てる精一杯の力で生徒たちと向き合っていきますので、よろしくお願い致します。

新担任
英語科



石塚 亜衣 先生

4月7日の入学式。107のみんなと初めて会いました。私の担任としての初めての仕事は、「体育館で全員の名前を呼びながら、握手をしたこと」です。恥ずかしそうにしている人、にっこりと笑顔返してくれる人、緊張している人、いろんな人がいました。私はこの36人と1年間過ごしていくのだと実感したのが、この瞬間です。

クラスの中には、一人として同じ人はいません。だからこそ、学校は面白いと思います。いろ

んな人がいるほど、意見がぶつかり合い、良いものが生まれます。私はまずこの1年が終わったとき、このことを実感できるようなクラス作りをしていきたいと考えています。そして、みんなが卒業するときには、素敵な3年間だったと思うように、過ごしていきたいと思っています。

新担任
理科



荒川 諒太 先生

今年度1年4組の担任をさせて頂いております、荒川諒太です。担任を持つという夢が叶い、幸せな気持ちを抱きながら日々生活しています。これから、生徒が夢を持つためのきっかけを与え、それを叶えるためにサポートをしていきたいと考えています。そのために、生徒がさまざまな職業に接する機会を増やしていくことや、私自身が勉強し、生徒に伝えられるようになる必要があると感じています。また、一人ひとりの可能性

を見つけ最大限に引き出し、伸ばしていくことが担任としての役割だと考えています。

生徒が卒業を迎えたときには、人生の目標に向かう「新たなステージ」に立ていられるよう、努めています。



●'14年度 在籍者数(4月1日現在)

	男子	女子	計
普通科	461	417	878
商業科	55	162	217
音楽科	10	75	85
計	526	654	1,180



'14年度 入学式

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、これまで大切に育てて来られた保護者のみなさま、ご家族のみなさま、本日は誠にありがとうございます。教職員を代表いたしまして、心より喜び申し上げます。

さて、新入生の皆さん。皆さんはそれぞれに、きつと大きな夢を描いて本校を選んだことと思います。同朋学園三大学への進学や、将来を考えての選択であったり、部で思いっきり活動したい、文化祭や行事が魅力だ、たくさん資格を取りたい、勉強に力を入れてもつと自分を高めたい、などさまざまな「夢」がそこにあったと思います。学校は一人ひとりの夢の実現を応援する場です。私たちは全力で皆さんを応援することをごににお約束いたします。学校は必要に応じてマンツーマンの指導もします。けれど、それ以上に大切なのは集団の中で皆さんを指導していくことです。

一つめは、努力に無駄はないということです。私たちが日々使う言葉に「かえる」という言葉があります。「家へ帰る」の「帰る」もありません。また、「振り返る」の「返る」もありません。さらに、「生還」(無事生きて戻る)とか奪い返す意味の「奪還」の「還」の字、つまり「しん」による「のつた」「還」もあります。「し」は「道をゆくこと」を表します。右側の「還」は「道」。正しくは「かえり」といいますが、これだけで「かえる」「よみがえる」という意味を表します。つまり、この場合の「還る」は「道を進み、ぐるっと回って元に戻る」といった意味になります。例えば、

道に迷って進むうちに、気づいたらぐるっと回って元に戻っていた、なんて体験がきつとあるでしょう。そんな時は本当につかりします。「無駄足を踏んだ。ああ、無意味だった!」と。学校でもよくあります。「生懸命練習したのに、本番では成果が出なかった、という体験です。試合の場合もあれば、楽器演奏の場合もあるでしょう。せっかく勉強したのに、時間不足やちよとしたミスで解けなかった数学のテスト、他にもあるでしょう。そもそも、青春時代そのものが迷い多き時代なのです。その時、私たちは「成果が出なかった」とがつかりします。「生懸命やればやるほど失望は大きく、心に穴の開いたような感じがするものです。ですが、これは短期で見た「成果」の有無でしかありません。人生はもっと長く、豊かです。その瞬間だけで「喜憂する」のではなく、長い目で見て「成果」を待つべきだと思います。要はどれだけ我を忘れて没頭できるか、その努力にかかっています。そうして我を忘れる度合いが大きければ大きいほど、後に得られる「成果」は大きくなります。先の話で「ぐるっと回って元に戻った」にしても、その時の自分は、回る前の自分とは異なります。そこに必ず経験と成長があるからです。皆さん、ぜひ力一杯我を忘れて、遠回りであつてもぐるっと回ってください。そうやって成長した皆さんの姿を見たいと思っています。

最後に、本校は親鸞聖人の教えに基づく真宗大谷派関係学校のつです。今ここに集う皆さんは「同朋」です。「仲間」です。生徒・保護者・教師とそれぞれ立場や役割こそ違え、願いはつ「一人ひとりの健全な成長です。私たちも「同朋」の一員として皆さまと接しますし、保護者の皆さまも「同朋」の一員として学校運営のよきパートナーとして私たちに協力をお願いします。ともに成長しましょう。新入生の皆さん、頑張りましょう。(学校長式辞より)

入学式・保護者ガイダンスの様子



新入生 誓いの言葉

新入生代表 108 白川 航太郎
(北名古屋市立訓原中学出身)

春のこちよい風が感じられる今日、私たち新入生404名は同朋高校に入学することができました。中学とは違った制服や環境に身をつみ、大きな期待や希望に満ちていると同時に、不安な気持ちでもあります。

私たちは、9年間の義務教育を終えて、これから、自分の生活や行動一つ一つに大きな責任が伴ってきます。苦しいこと、楽しいことなど、高校ではいろいろなことがあるでしょう。そう考えると不安もありますが、なんだかワクワクもしています。

新たな友に出会おうでしょう。友はこれからの未来の財産です。互いに励まし合い、協力できるような友をつくり、大切にしていきたいです。新しい同朋高校で過ごす生活の中で、夢のために努力をし、勉強はもちろん、部活動においても積極的に取り組み、充実した高校生活を送りたいと思っています。

また、私たちが力を合わせて同朋高校がもっと良い学校になるよう努めていき、新たな経験をを通して多くのことを学び、社会の発展に貢献できる人間に成長していきたいです。

高校生活が送れるようになるのも親のお蔭です。これからの僕たちの成長を見守ってください。最後に、私たち新入生は、歴史と伝統のある同朋高校の生徒として誇りを持ち、その名に恥じぬような高校生活を送ることをここに誓います。



'14年度 体育大会

今年の体育大会は気温も30℃近くあるであろう快晴の中で行われました。

競技部門では、男子の種目2000M走800Mリレー、群対抗リレーは今年も質の高い白熱した戦いが見られ、会場を沸かせてくれました。女子の集団種目である綱引き・玉入れは各群団チームワークのある取り組みで、応援者とも一体感のある競技となりました。50M走4000Mリレーは1年生の奮闘が見受けられ、女子種目のレベルアップも感じられました。

応援合戦では、今年の特徴としての群団もチームワークを大切にされたものであったように感じられました。1年・2年・3年各クラスで構成されている群団は約120名。本当に息の合った演技の連続でありましたし、高校生らしいエネルギー溢れる、笑顔あふれる取り組みで、見る者の心を動かすものであったように感じます。

終始気持ちよく体育大会が運営されていく素晴らしいものでありました。

思い出に残る体育大会であったのではないかと思います。

(体育大会実行委員会 小川 幸子)

桃色群団で得たもの

307 山口 十夢
(東海市立富木島中学校出身)

今年の体育大会はこれまでの二年とは違って、自らがアクションを起こさないと何もならない大会でした。自分たちでイチから決めて、練習して1・2年生に教えて……というところまでしなければいけない。さらに自分が副団長になったことでクラスを引っ張っていく立場でもあり、なおかつ団長も支えなければならぬ立場でもありました。

今回、副団長をやったことは、指揮をとる立場の人は大変だということです。必要とされたのは伝える能力。群団練習で1・2年生をまとめたり、ダンスを教えたりしました。しかしその能力が足りず、伝わらなかったり、なかなか一部の人が練習に来てくれなかったりと、うまくいかないこともたくさんありました。普段授業をしている先生達も同じようなことを思ったりしているのかなと思いました。加えて、指揮のための準備をするだけでも大変なのに、言うことを

聞いてくれないこともあってストレスが溜まったこともありました。

だけど、指揮をしてもらう側の人なんとも思わないだろうし、当たり前のことだと思えます。なぜなら、これまでの僕もそうだったからです。しかし、今回の体育大会では普段とは逆の立場に立ったからそれに気付くことができました。

正直、本番までに団長とダンスリーダーがぶつかって崩壊しそうな時もありました。だけど、最後にはそれを乗り越えて本番でダンスは優勝することができたし、何より自分たちの頑張りが認められて本当に嬉しかったです。そして、最後まで群団とクラスを指揮していた団長たちを心の底からすごいと思いました。

総合優勝こそ逃したけれど、自分たちで作上げたダンスでは優勝することができたし、今回の体育大会で得たことはすごく大きく、今後の自分のためにもなると思いました。今後は今回得たことを活かして、社会に出て活躍できるようにしたいと思っています。最後に、群団の人たちには本当に感謝していますし、協力してくれたすべての人たちにも感謝しています。



大会結果

競技部門 (群団別)	優勝	緑群団 (303/201/108)
	準優勝	赤群団 (308/204/104)
	3位	青群団 (305/207/109)
競技部門 (クラス別)	同点優勝	308
		201
		108
応援部門 (群団別)	優勝	桃群団 (307/211/101)
	準優勝	黄緑群団 (311/203/103)
	3位	赤群団 (308/204/104)

PHOTO : 写真部提供

1年生 フレッシュマン合宿

4月22日(火)～4月24日(木)

新1年生は、二つの団に分かれ2泊3日の「フレッシュマン合宿」を行いました。二団は岐阜県郡上市(101:102:103:104:105:111)、二団は愛知県西尾市(106:107:108:109:110)の実施となりました。

今年は一人の欠席者もなく新1年生全員でフレッシュマン合宿を行いました。

合宿は「基礎学力検定」(通称／基礎検)の学習と試験が中心でした。「質問学習」では、積極的に教員に質問をしたり、生徒同士で教え合いをしている姿が印象的でした。試験直前の「沈黙学習」では集中して学習に取り組んでいました。そして基礎検に合格したときの歓喜の様子、不合格したときの悔しがる様子など、一生懸命取り組んだからこそ見える表情がありました。合宿の計7回の試験で、95名の生徒が英数2教科ストレート合格、319名が基礎検を修了しました。

また学習のほか、講演会を行いました。卒業生をゲストに迎え、進路について考える「キャリア教育講演会」と、ベテラン教員による、同朋高校自主活動について学ぶ講演会です。勉強の合間に行った計2回のクラスホームルームの時間では、レクリエーションなどクラス内で交流をすることができました。

3日間の合宿を終え、同朋高校生としての一歩成長した姿を見せてくれました。今後とも1年担任団として、生徒に寄り添い、彼らの成長を見守っていきたいと考えています。

(1年学年主任 林 雄二)

最悪だと思ったけれど...

108 川口 萌

(御田中学校出身)

私はこのフレッシュマン合宿に行つて、たくさんのお話を聞きました。ほとんど勉強ばかりで、正直最初の方はとてもつまらなくて最悪だと思つていました。けれど、五級を合格して、四級を合格して...と、どんどん合格していき、とても嬉しくなりました。学習室の席の周りのメンバーは、わからないところを優しくわかりやすく教えてくれました。だんだん沈黙学習でさえ苦にならなくなりました。むしろ楽しかったです。途中で愛情学習に行くことになつてしまつたけれど、そのメンバーと仲良くなれたし、一緒に愛情学習へ行つた子と二発で合格できたので、結果的には良かったと思います。そんな中で勉強とテストの間の休憩や食事が楽しみで楽しみで仕方なかったです。忘れかけていた勉強も取り戻せ、クラスのみんなや他のクラスの人たちとも仲良くなれて、私にとってこの三日間は忘れられない思い出になりました。

閉校式 生徒代表挨拶

109 二村 菜月

(柳中学校出身)

みなさん、3日間お疲れ様でした。この3日間、勉強ばかりで辛かったですが、友達と勉強を教え合ったり、一緒に頑張つて合格して喜んだり、たくさんのお話を通して親睦も深まったと思います。クラスメイトや、他のクラスの友達の良い所もたくさん知ることができました。はしゃぎすぎて怒られたりもしましたが、私はこの3日間とても楽しかったです。

卒業生の安場さんのお話は、これからどう過ごしていくかタメになつたし、教頭先生のお話を聞いて、先輩の意志を受け継いでみんなが過ごしやすいようにしたいと思いました。

フレマンに行くまでは、すごく不安で、正直嫌だつたけれど、3日間とても楽しくて、時間が経つのが早くて、少しさみしいです。

ホテルのご飯は毎日おいしくて、ついたくさんご飯のお代わりをしてしまつたり、露天風呂もとてもキレイでした。

3日間ずっと勉強という少し変わった合宿でしたが、私はとても楽しかったです。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



3年生 上山研修

じょうざん

同朋高校の3年生は、毎年4月に学校を代表して真宗本願(東本願寺)にて上山研修を行っています。今年も4月24日に374名の生徒が京都にて研修を受けました。朝早くの集合にもかかわらず定刻通りに出発することができ、順調な行程で京都に到着しました。宗教研修ということもあり、最高学年らしく整齊した標準服姿で、3年生徒みなが真摯な姿勢で研修に臨むことができました。

東本願寺大寝殿で行われた教育講演では、東本願寺参務の木越さまよりお話をいただきました。その中で、同朋高校の卒業式について触れられ、「みなさんも是非、素晴らしいあの卒業式を引き継いで下さい」とのお言葉をいただきました。

東本願寺での研修を終え、午後からはクラスごとに清水寺、錦市場、京都駅周辺などを巡り、京都ならではの古都の町並みに触れることもできました。限られた時間での研修ではありましたが、最後の高校生生活を迎える3年生三同にとって有意義な1日となりました。

(3年学年主任 大野 晋也)



2年生 遠足

快晴に恵まれ、普通科は朝明茶屋キャンプ場(孤野町)にデイキャンプ、商業科はうなぎパイファクトリー(浜松市)へ工場見学、音楽科は楽器博物館(浜松市)の見学に行きました。

普通科は、新しいクラスの仲間との交流を目的にバーベキューでの食事やクラリネットの「ピザ作りコンテスト」。商業科は、うなぎパイの工場見学に行き、生産に至るまでの歴史や製造工程に触れ、食品業界についての学習。音楽科は、1000点を超える楽器の展示に触れ、それぞれ楽器の構造や歴史をしっかりと学んできました。

生徒たちにとってこの遠足が3年間の大切な思い出となったことを心から願います。

(2年学年主任 佐野 将史)

普通科 朝明茶屋キャンプ場

205 木村 海人

(豊国中学校出身)

僕は今回の遠足をとても楽しみにしていました。それは、2年生になつて初めての学年行事だったことと、BBQで行う「ピザコンテスト」で優勝する自信があったからです。同じ班にBBQ経験者の仲間がいて、僕はピザが好きなので、やりたいアイデアがたくさんありました。計画する時にはいろいろな意見が出たけれど、ピザはシンプルイズベスト、凝つたピザもいいけれど、定番ピザのほうが勝てると思いました。ピザはシンプルだけど、ピザの耳にチーズを入れたり、トッピングにお餅を用意したりと、アイデア勝負でコンテストに臨みました。

商業科 うなぎパイファクトリー

209 服部 友香

(御田中学出身)



遠足でうなぎパイ工場に行き、働く人たちに近くで見えてみて、いろいろなことが大切だとわかった。その働く場所に合った服装、髪型、化粧、言葉遣いなど、たくさんの方の決まりがあるからこそ仕事があるからこそ決まりがあるからこそ楽しく仕事ができるんだと思った。

働くためには、二人ではなく一緒に働く仲間がい

て成り立つのだと思った。一人ではやれることにも限りがあるし、二人ついても大変だろうなと思った。もし私が社会に出て働くということを考えたら、大丈夫なのかな?と思った。今のままだめだと思った。

工場見学に行つて働いている人たちを見てきて、いろいろなことを知ることができたのでよかった。

音楽科 楽器博物館

211 石黒 和雅

(宮市立丹陽中学出身)



楽器博物館へは行ったことがなかったのですが、とても楽しみにしていました。自分が一番期待していたのはチェンバロです。鍵盤楽器の元と言われるものに触れることができ、本当に嬉しかったです。ピアノは自分のタッチの強さで音の強弱が変わりますが、チェンバロはどんな強さで弾いても一定した音が鳴りました。それを、現在の鍵盤楽器で奏でようとすると、かなり難しいです。電子楽器は永遠に音が鳴る仕組みですが、ピアノやチェンバロはだんだんと消えていきます。そのためしっかりと弾かなければ、音楽がきれいに奏でられないなど実感しました。あの楽器を自らの手で触れたことにより、自分は何かつかめるような気がしました。新たな発見で自分にプラスなことがあり、とても嬉しかったです。

